かしこく　やさしく　たくましく

国際感覚を身に付け、確かな学力と人間性を備えた児童生徒の育成

めざせ！南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学 校 便 り

令和７年 11 月学校行事号№.３

ヨハネスブルグ日本人学校

「僕たち／私たちは小さな外交官」―関澤一等書記官様による特別授業

11 月 11 日、ヨハネスブルグ日本人学校に、在南アフリカ共和国日本国大使館の一等書記官・関澤久美さんをお迎えし、特別授業を行っていただきました。テーマは「僕たち／私たちは小さな外交官」。外交官という仕事の魅力や、国際社会で活躍するために大切なことを、関澤さん自身の経験を交えてお話しいただきました。

関澤さんは、1997 年から約 4 年間、ヨハネスブルグ日本人学校で学んだ卒業生です。当時はネルソン・マンデラ大統領が現役で、南アフリカが民主化を進める歴史的な時期でした。授業では、当時の学校生活や学習発表会、タイムカプセルの思い出など、懐かしい写真を交えながら語ってくださいました。「日本人学校は、家族ぐるみで支え合う温かい場所だった」と振り返る言葉に、子どもたちも大きくうなずいていました。

また、日本人学校で過ごした日々が、将来の夢につながったと話されていました。南アの美しい星空を見て宇宙に興味をもち、宇宙関連の仕事に就いた友人もいれば、日本企業で働く夢を叶えた仲間もいます。関澤さん自身は、海外で活躍する保護者の姿に憧れ、「日本企業を応援したい」という思いから経済産業省に入省。現在は外交官として、日本と南アフリカの経済関係を深める仕事に携わっています。

授業では、外交官の仕事についても具体的に紹介されました。たとえば、日本と海外の貿易ルールを決める EPA や FTA 交渉、企業の海外進出を支援する産業人材育成、そして南ア政府との政策協議など、多岐にわたります。「日本企業が安心して海外で活動できるように、現場に足を運び、課題を一緒に解決することが大切」と語る姿に子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていました。

最後に、関澤さんから「皆さんの可能性は無限大です。好きなことを見つけて夢中になりましょう。夢は努力すれば必ずかないます」という力強いメッセージが送られました。授業後、子どもたちからは「外交官ってかっこいい！」「将来、海外で働きたい」という声がたくさん聞かれました。

いざとなったら、私たちも人命救助に貢献！

救急救命法訓練を実施しました！

11 月 12 日（水）、2 校時にパラメディク社のミッシェルさんを講師に迎え、救急救命法の特別訓練を行いました。対象は小学部 4 年生以上の児童生徒で、心肺蘇生法（CPR）や AED の使い方を中心に、万が一の場面で命を守るための大切な知識と技術を学びました。

まず、ミッシェルさんから「救命の第一歩は、落ち着いて状況を判断すること」という説明があり、意識の確認や安全確保の重要性を学びました。続いて、実際に人が倒れた場合の対応を、講師の実演を見ながら確認しました。児童生徒たちは真剣な表情で説明を聞き、質問にも積極的に答えていました。

次に、心肺蘇生法の実技です。胸骨圧迫の位置や強さ、テンポを確認しながら、全員が CPR マネキンを使って練習しました。「強く、速く、絶え間なく」というポイントを意識しながら、何度も繰り返し挑戦する姿が見られました。また、AED のパッドの貼り方や電気ショックの手順も学び、実際に機器を操作する体験をしました。

今回の訓練を通じて、児童生徒たちは「自分にもできる」という自信を持つことができました。命を守る行動は、知識と練習があってこそ可能になります。学校としても、こうした機会を継続的に設け、子どもたちが安心して生活できる環境づくりを進めていきます。

「もしもの時に慌てず対応できるように」――この日の学びは、子どもたちにとって大きな力となりました。